

市民事業等支援制度 モニターによる評価

【市民事業モニター実施状況】

回	実施日	モニター団体	モニター事業	実施箇所
1	22. 8. 8(日)	七沢里山づくりの会	森林の保全・再生事業 普及啓発・教育事業	厚木市七沢
		伊勢原森林里山研究会	森林の保全・再生事業 森林の保全・再生以外の事業	伊勢原市日向
2	22. 8. 22(日)	四十八瀬川自然村	森林の保全・再生事業 普及啓発・教育事業	秦野市菖蒲
		しのくぼ	森林の保全・再生事業 普及啓発・教育事業	大井町篠窪
3	22. 8. 23(月)	丹沢森林環境研究所	調査研究事業	山北町川西
		共和地域振興会	森林の保全・再生事業	山北町皆瀬川
		北丹沢山岳センター	森林の保全・再生以外の事業	相模原市青根
4	22. 9. 10(金)	河川生物研究クラブ	普及啓発・教育事業	相模原市橋本
5	22. 9. 27(月)	海老名里山づくりボランティア山仕事の会	森林の保全・再生事業	海老名市上今泉
		きれいな中津川菁莪の会	森林の保全・再生以外の事業	厚木市下入川

水源環境保全・再生かながわ県民会議
市民事業専門委員会

1 ねらい

この評価シートは、貴重な水源環境保全税を財源に実施している現在の市民事業等支援制度が、その目的である「水源環境の保全・再生のための県民主体の取組の推進」に資する制度になっているかについて、県民会議委員と補助団体によって評価するためのシートです。

「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」が施行されて今年で4年目となり、現在、次期の実行5か年計画について検討が進められております。そこで、5か年計画における12の特別対策事業の一つとして位置づけられている市民事業等支援制度についても、その見直しが行われることになりました。

水源環境保全・再生かながわ県民会議では、この市民事業等支援制度をより良いものとしていくためにも、現在の制度について評価を行うとともに、皆様方のご意見を踏まえながら、県に対して提言を行っていきたいと考えております。

そこで、現在の市民事業等支援制度が、その目的である「水源環境の保全・再生のための県民主体の取組の推進」に資する制度になっているかについて、県民会議委員と補助団体の皆様によって評価を行うこととしました。

評価結果は、上記目的を達成するため、より利用しやすく、さらに水源環境の保全・再生に資する制度にするための検討に反映させていきます。

この補助制度は、県民の皆様からいただいた個人県民税の超過課税（年額約38億円）を財源として実施されており、県民の皆様に対して、事業の透明性を確保し、説明責任を果たしていくことが、特に求められております。こうした点からも、評価について、ご協力をお願いいたします。

なお、これは市民事業等支援制度のあり方について評価を行うためのシートであり、個々の団体の活動自体を評価するものではないことを申し添えます。

2 制度評価の視点

事業活動と利便性等から現行の制度について下記の視点から評価をお願いします。

(1) ⑤については補助を受けた事業について記入してください。

なお、県民会議委員については、モニター及び団体へのヒアリングにより評価を行ってください。

(1) 事業活動を通じた制度評価の視点

- ①活動内容に広がりや深まりがみられたか
- ②新たな関係性が構築されているか
- ③事業が継続的に展開されているか
- ④団体の自立につながっているか
- ⑤水源環境の保全・再生に資する事業か

(2) 利便性等から見た制度評価の視点

- ①利用しやすい支援制度となっているか
- ②水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築出来ているか
- ③目的達成に資する制度になっているか

3 評価方法

評価の視点ごとに、評価のポイントがあります。その達成状況をA～Dの4段階（※）で評価し、記入欄に記入してください。また、記入欄にその評価をした具体的な理由を根拠となる数字とともに簡潔に記入してください。

- ※ A…概ね達成できている（概ね満足できる）
- B…どちらかといえば達成できている（どちらかといえば満足）
- C…どちらかといえば達成できていない（どちらかといえば不満）
- D…達成できていない（不満）

4 事業活動を通じた制度評価

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
① 活動内容に広がりや深まりがみられたか	参加者数の増加が見られたか	A 16 B 22 C 16 D 2	<p>○補助金によりボランティア活動者に昼食・交通費の支給が出来たので、参加者は増加した。</p> <p>○会員数はおおむね増加傾向にあるが、高齢者の多い地域で会員を増やすのは難しい面もある。</p> <p>○20年度参加者は616名、21年度は市や小学校、トラスト等からの委託による自然観察会の実施で、参加者が1,192名と前年度を大きく上回り活動の展開が見られる。</p> <p>○1日当たり1.3人の増加。増加率約7.3%ということで微増。</p> <p>○地域が主体の団体であり、地域住民に参加を呼びかけるのは可能。会員の6割強19名の子供会の参加があった。</p> <p>○若い人の参加やリピーターが増えないのは、実施主体のPR不足を否めないが、参加する側の認識の甘さ、無知も影響している。そこで、地元自治会活動の通年の作業に組み込むとか、参加者を広く地域外に募る場合は作業内容、作業現場を正確に周知するなど工夫が望まれる。参加者募集の詳細な内容を申請書に記述されることができないか。</p> <p>○近隣の方が2名参加したが、参加者増員に積極的なアクションがない。</p> <p>○25人前後の人数で作業を行っている。若い人はほとんどおらず、リタイヤした人が多い。</p> <p>○増加の時期もあったが、減り気味である。会員の年齢が上がってきて体力的限界のため参加が減っている。</p> <p>○参加者の高齢化が進み、参加者は減る傾向にあるが、今いる人たちで細く長く取組をしていこうという印象。</p>

評価の 視点	評価の ポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
①（つづき）	参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりや深まりが見られたか	A 3 B 25 C 27 D 2	<p>○作業の困難性もあってか、やや固定化しているが、大学と連携しており、学生は若さと数で助けになっている。</p> <p>○ホームページを見た若者が応募し、活動に参加している。</p> <p>○神奈川新聞に掲載されたことがきっかけで横浜市1名、大和2名、小田原2名が新たに参加してくれている。</p> <p>○対象主体は小学生であるが、自然観察会として一般向けに道志川や相模川に広がりを見せている。一方で、依頼者側の助成金減少で依頼数が伸び悩んでいる様子もうかがえる。</p> <p>○若い人の参加やリピーターが増えないのは、実施主体のPR不足を否めないが、参加する側の認識の甘さ、無知も影響している。そこで、地元自治会活動の通年の作業に組み込むとか、参加者を広く地域外に募る場合は作業内容、作業現場を正確に周知するなど工夫が望まれる。参加者募集の詳細な内容を申請書に記述されることができないか。</p> <p>○町の行事のように活動をしているが、そのためか広範な参加者の広がりが見られていない。</p> <p>○基本的には有志で集まって調査をしているという状況。</p> <p>○参加者の高齢化が進み、参加者は減る傾向にあるが、今いる人たちで細く長く取組をしていこうという印象。</p> <p>○地元の里山整備で地域住民が主体であり、活動日も平日と現役世代や他地域からの参加がしにくい。</p> <p>○50～60代中心で若年層の広がりには目に見えないが、子供会の参加に期待を持ちたい。</p>

評価の 視 点	評 価 の ポ イ ン ト	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
① （つづき）	事業実施箇所 に広がりや深まりが みられたか	A 18 B 20 C 14 D 2	<p>○一般的に森林所有者は他人に管理をまかせたがらない。財産区や共有林など地域と直接関わりのある情報を持っている森林組合との連携が不可欠。</p> <p>○地主の協力もあり、整備箇所が広がっている。</p> <p>○地主との話し合いなどにより、実施箇所は広がっているようである。</p> <p>○現在、12箇所定点観測を実施しており、これ以上広げるとは人員・経費の点で難しいと思われる。データが集まる事で深まりは増すと思われる。</p> <p>○活動自体は広がっている。</p> <p>○補助金で購入した用具で自然観察会が着実に実施できている。オートキャンプ場等で指導と広がりを見せているが、これからは更に広がっていくのか判断できない。</p> <p>○作業面積は前年度より減少しているが、土地交渉等の努力をしている。作業範囲も広がり地域住民も関心を示している。</p> <p>○現在は寺所有の山林を中心に作業しているが、隣接の生産森林組合所有林まで広がれば、地元にもNPO活動が認められたといえる。今後の会の努力に期待したい。</p> <p>○計画どおり植栽を実行しており、それ以上事業を広げようとする考えはないようである。</p> <p>○実施箇所を河川敷に決めている。</p>

評価の 視点	評価の ポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
① （つぎ） （き）	事業メニューに広がりや深まりがみられたか	A 15 B 20 C 17 D 4	<p>○里山保全に向けて、地主さん達に説明を行う際の見本となるようなモデルとしての整備を試みた点。</p> <p>○事業メニューは確実に増えているようだが、人員が追いつかないように思えた。</p> <p>○調査研究事業では仕方ないが、事業メニューは固定している。が、森林体験教室を開催することで、普及啓発活動への広がりが見られた。</p> <p>○炭焼部会、製材部会ははじめ4部会を立ち上げたことで、間伐材を腐らせずに利用できるようになった。</p> <p>○手作りの生き物図鑑の活用、川に入って水質・水生生物の調査と活動の深まりが見られるが、事業自体の広がりを感じられなかった。</p> <p>○大学との連携による調査、各種イベントへの参加、資格の取得、間伐材の利用など森林整備に取り組む姿勢はすばらしい。今後は長期計画に基づく、総合的な森林整備を実施することを期待したい。</p> <p>○荒れた山をきれいに整備できているが、収益を生み出す活動はなかなか出来ていない。</p> <p>○身の丈サイズのことをやっていけばよいと考えており、広げる意志はない。</p> <p>○里山整備や草刈を主体に継続。新規メニューは見られないが、活動範囲は広く学校林整備等も行っている。</p> <p>○草花の定植化案を持っているようだが、現状は草刈で手一杯。見直しも視野に入れたほうが良いのではないか。</p>

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
② 新たな関係性が構築されているか	補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか	A 12 B 20 C 17 D 9	<p>○交流会で知り合った団体と協力した事例が出てきている。</p> <p>○他団体との関係性は乏しいが、交流会で県研究職員との話し合いがなされた。</p> <p>○遊歩道整備において、他団体との交流がなされた。</p> <p>○市教育委員会からの依頼は補助金制度を利用した成果といえる。一方で、他団体や基礎自治体との交流は無いようである。</p> <p>○他団体との交流の必要性を感じていない。ただ、従前から役場や市役所とは連絡を取りながら対応しているという印象。</p> <p>○市から補助を受けている。市の各種行事に参加して、活動のPRに努めている。域外の市民や企業に働きかけを行っているが、この制度によるものかは不明。</p> <p>○3件の問い合わせに対し、1団体と交流はあるようだが、ネットワークや協働、情報交換等の活発さは見られない。</p> <p>○新たな関係性の構築はされていないようだった。</p> <p>○（交流会などで）一同に会しても交流する時間を持っていないのが現状。</p> <p>○地域住民との交流はあるが、他団体や自治体と積極的な関係を築こうとしていないようである。</p>

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
③ 事業が継続的に展開されているか	中長期的な事業計画があるか（補助終了後の事業計画があるか）	A 14 B 30 C 11 D 3	○「ふるさとづくり計画書」があるとのこと。 ○具体的な計画はないが、構想はあるようだ。リーダーが構想をまとめればよいが時間的にも難しいようだ。 ○2～3年後まで活動計画を立て、それに基づいて作業を行っている。 ○具体的には聞いていないが、当面の計画はあるように伺っている。 ○具体的な対策については聞けなかったが、10年間は現在の調査を続けるとの考え。 ○中長期的な地域づくり計画の中での取組となっている。 ○砂防ダム周辺への植樹や植生保護柵の延長を今後も進める。 ○整備後は保全と管理をしていく。 ○現行の活動は継続したい意向だが、具体的な事業計画がない。また、補助金依存の傾向も見られる。培ってきたノウハウをどう生かすか、知恵を出し切っていない。 ○草花の定植化はゴロタ石の河原に馴染むのか疑問である。目的実現のための手法を検討する必要がある。

評価の 視 点	評 価 の ポ イ ン ト	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
③ （つぎ）	補助が終了した場合の事業継続の見通しは立っているか	A 13 B 25 C 15 D 0	<p>○資機材などを整備し、労力の軽減などの工夫を行っているので、事業の継続は可能と思われる。</p> <p>○補助金はそれなりに働く意欲を引き出しているようだ。終了した場合、ペースは落ちるが継続する。</p> <p>○具体的な対策については聞けなかったが、10年間は現在の調査を続けるとの考え。</p> <p>○炭焼き、簡易製材、イベントなど自立できる要素は十分にもっている。</p> <p>○事業収入により植樹活動の継続が可能。</p> <p>○市から補助金を受けられるので、継続は可能。</p> <p>○会員の連携は強い。</p> <p>○生活環境の保全も視野に入れ地域住民の協力を得られれば継続もよりアップされるのではないかと。</p> <p>○収入が得られる事業のアイデアを他団体との交流で参考にされると良いと思う。</p> <p>○小学校からの依頼及び市のエコネットからも依頼が始まっているが無報酬であり、また、確実な依頼先の確保には至っていないようだ。</p>

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
④ 団体の自立につながっているか	当補助金以外の活動資金は確保出来ているか	A 15 B 25 C 17 D 2	<p>○他団体（民間・国）の補助金を活用し、活動を継続している。ログプランターなどの販売をし、活動資金の確保を行っているが、少額である。</p> <p>○炭焼き40～50万円、シイタケ販売などあり、最低限の活動は出来ると思う。</p> <p>○ほかに多くの補助を受けており、資金集めを積極的に進めている。</p> <p>○事業収入により植樹活動の継続が可能。</p> <p>○補助実績からみて、資機材の追加購入がなければ会員と賛助会員からの資金計画で維持できそうだが、会員や賛助会員の減少も見込んで他の資金調達方法も必要ではないか。</p> <p>○市から水辺広場の管理費が入る。その収入を活動費に充当する。</p> <p>○資金面での明確な見通しは見られないが、企業からの活動資金がある。</p> <p>○自然観察会の謝礼金を主な活動資金にしており、観察会依頼者の増減によって運営が左右される状態。また、現補助金以外の資金確保の手段を講じる手立てをしていない。</p> <p>○炭の販売収入が約40万円程度あるが、補助金がなくなると運営は厳しい。</p> <p>○ほだ木を販売しているが、活動も資金の確保も難しい。</p>

評価の視点	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
④ （つづき）	会員数は増加しているか	A 5 B 27 C 26 D 1	<p>○年2～3人の増加。</p> <p>○わずかであるが増え始めている。</p> <p>○少しずつ増えているが、人材集めが課題。人材集めの窓口が欲しい。</p> <p>○大幅ではないが前年度より増えている。減少していないのは評価。</p> <p>○会員数は横ばいで、高齢化が進んでいる。地元を愛する気持ちだけでは会員は増えないのではないか。</p> <p>○固定化している。</p> <p>○固定の会員はいるが、増加はしていない。</p> <p>○現会員は11名。会員増へ努力したいというが具体策が無い。</p> <p>○構成メンバーは自治会員で維持されているが、他に積極的な会員増を図っていない。</p> <p>○やや減少傾向だが、機械力で十二分に実績を上げている。後継者は必要。ただし、意欲のあるメンバーだけで運営するのも一つのやり方ではないか。</p>

A…概ね達成できている

B…どちらかといえば達成できている

C…どちらかといえば達成できていない

D…達成できていない

⑤水源環境の保全・再生に資する事業か

事業区分	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
特別対策事業区分 （間伐材の搬出事業を含む） 森林の保全・再生事業	水源かん養機能の高い森林に近づいているか（下層植生の回復、林内が明るくなった、皆伐など過度な整備の有無、など）	A 25 B 18 C 2 D 0	<ul style="list-style-type: none"> ○間伐やシカの保護柵を設置しているため、下層植生が回復しており、水源かん養機能のある森林となっている。 ○最近整備したと思われる雑木林は表土が見えたが、以前間伐した場所には下草などが生え、水源かん養機能が改善されていた。 ○市民事業としては高レベルの作業と感じた。古いスギ、コナラやクヌギの間伐を行い、若い広葉樹を植栽しており、いずれ水源かん養機能の高い森林に変わるものと思う。 ○荒れていた里山が綺麗になり、不法投棄も減少、木々の管理も同時進行中。 ○どちらかと言うと環境整備的な色彩が強いが、1万本植樹計画や財産区の針葉樹を伐採し、広葉樹の植栽を考えているので、水源かん養機能の高い森林になるでしょう。 ○過酷な環境ではあるが、植樹の努力は続けており、水源かん養機能が期待できる森を作ろうと努力をしている。 ○水源かん養機能が高いとはいえないが、放置されていた里山整備により林内も明るくなり自然回復を目指している。不法投棄や防犯対策の効果も生まれた。
	間伐材を有効に活用したか	A 22 B 13 C 3 D 0	<ul style="list-style-type: none"> ○間伐樹木を自作の現場製材機で加工、植生保護柵の木枠に活用。間伐材によるログランター作成、販売。 ○間伐樹木を自作の炭焼小屋にて木炭貸し、販売収益がある。副産物の木酢液の活用は少ない。 ○シイタケ用、炭焼き用と、残りはチップにして果樹の肥料にと無駄なく利用。 ○炭焼きやベンチ作り、チェーンソーアートなど様々に活用している。 ○林内道の法面土留めに利用。カントリーヘッジとして活用。

事業区分	評価のポイント	評価欄	具体的な理由（根拠となる数字など）
特別対策事業区分	登山道整備等を実施することで、歩きやすい登山道とするなど水源環境の保全に寄与したか	—	—
	事業実施後の河川・水路が親しみやすいものとなっているか	A 1 B 1 C 6 D 1	○事業区分と異なるのではないか。河川敷美化整備というべきか。草刈と併せ、目的合った造成が必要ではないか。
	水辺の生態系に配慮した事業となっているか	A 0 B 2 C 4 D 1	○ハリエンジュの皆伐が有効か疑問である。樹林を残した河畔林として水辺環境の保全としたほうが良いのではないか。
普及啓発・教育事業区分	水源環境の保全・再生の必要性を伝えるプログラム構成になっていたか	A 2 B 10 C 4 D 2	○イベントを通し、一般市民に酒匂川を取り巻く環境などを伝えている。 ○授業で水源林や下水、生きるための水等について学んでいる一環として総合学習で教えているが、適切なプログラム構成になっているか不透明。
	普及啓発・教育事業が多くの人々の理解を得られたか	A 1 B 8 C 3 D 2	○域外の参加者はいるが、継続的な活動にはなかなか結びつかない。里山荒廃の現状を知るという意味では大きな効果はある。 ○小学生や一般向け自然観察会実施により、一般的な河川に対する普及啓発・教育事業としては、ある程度理解を得られているのではないか。 ○チェンソーなどの実務研修や講習を地元住民対象に行っており、かなり限られたものである。これでも良いのかもしれない。
調査研究事業区分	水源環境の保全・再生を図るうえでの基礎データとして有用性があるか	A 0 B 1 C 3 D 2	○地元における水質環境変化の指数として、一定の評価は出来るが、基礎データとしての有用性は十分でない。検査方法について専門的な知識を有する県職員等による技術指導が必要と思われる。
	調査研究結果が広く活用されるためのPRを行っているか	A 0 B 2 C 2 D 2	○HPやイベントにおいて、一定のPR活動を実施した。

A…概ね達成できている

B…どちらかといえば達成できている

C…どちらかといえば達成できていない

D…達成できていない

5 制度の利便性評価

(1) 利用しやすい支援制度となっているか

市民事業支援補助金制度についてA～D段階の4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。その他、制度について気付いたこと等（例：概算払について）あれば、その他の欄に記入してください。

（特にC, D評価をした項目については必ず記入してください。）

評価項目	評価欄	主な理由
申請手続き	A 17 B 22 C 9 D 2	事務手続きの簡素化は一考を要しよう。 「事業の目的及び内容」「事業目的」「事業概要」など言葉の整理は必要。
審査方法	A 12 B 35 C 2 D 0	書類だけで判断するのは理解不足である。「現場」を見る必要性を感じる。 現場における中間審査（中間評価）も検討してはどうか。 事前審査でヒアリングをすることも一つの方法と考える。 申請団体の熱意を汲み取れるような審査方法も考慮すべき。
対象事業(※)	A 9 B 12 C 10 D 3	水源環境保全・再生に資する事業か基準を明確にしたほうが良い。
補助額	A 14 B 24 C 7 D 0	限られた予算の範囲で補助額を決定すればよく妥当と考える。 事務経費など直接事業費以外の支出科目を認めては。
補助期間	A 15 B 18 C 12 D 2	団体により延長を考慮しては。 長期プログラム制の導入…3年間事業。 2年間の内に自立への道を探り、必要に応じて資金面以外のバックアップをする。（普及啓発）
その他 ()		チェーンソー技術講習会の開催 チェーンソー技術者の派遣制度の創設 ボランティア保険の改善化 専門家によるアドバイス制度 概算払の導入

※水源環境の保全に資する事業にもかかわらず、対象外となってしまう事業がないか等

A…概ね満足できる

B…どちらかといえば満足

C…どちらかといえば不満

D…不満

(2) 水源環境の保全・再生に係るネットワークが構築出来ているか

現在の制度ではネットワークの構築のため、交流会の実施や県ホームページに各団体のイベント情報・活動支援情報等の掲載を行っております。それらの制度についてA～Dの4段階で評価していただき、その評価をした理由を具体的に記入してください。（特にC,D評価をした項目については必ず記入してください。）

評価項目	評価欄	主な理由
交流会 (11月開催)	A 9 B 26 C 8 D 0	作業が少ない1、2月開催が良いのでは。 参加しない人の調査が必要だろう。 参加団体同士の積極的な交流がされていない。交流会の内容にもう一工夫必要。 関心のあるテーマについて、自由に議論できるような仕掛けのほうがいい。 団体相互のオルガナイズ機能を持たせるべき。
公開プレゼンテーション（2次選考会、3月開催）	A 3 B 24 C 5 D 0	実績報告と申請の時間を分けて欲しい。分けてあるほうが内容が明確になり、分かりやすい。 時間不足でうまくプレゼンできない団体もあるが、事前に持ち時間を知らされており、どうアピールするか参加者側にも工夫が必要。
県ホームページ	A 5 B 19 C 0 D 0	県ホームページは掲載されている箇所が分かりにくい。 支援団体の紹介ももう少し工夫があると良い。

ネットワークの構築やその他、財政面以外の支援として必要なものを挙げてください。

- ・整備場所確保には、土地交渉が重要となるが、行政のバックアップがあれば交渉しやすくなる。
- ・支援団体の活動をより多くの市民に知らせる広報的な支援を広げるべき。
- ・他の補助制度に関する情報

A…概ね満足できる

B…どちらかといえば満足

C…どちらかといえば不満

D…不満

第1回市民事業モニター実施結果

- 1 日 時 平成22年8月8日（日） 8時50分～15時00分
- 2 対象団体 伊勢原森林里山研究会、七沢里山づくりの会
- 3 場 所 伊勢原市日向及び厚木市七沢
- 4 参加者 井上委員、北村委員、倉橋委員、小林委員、田中委員、沼尾委員、林委員、柳川委員、蓮場良之
- 5 行 程

時 間	内 容	所要 (分)	場所等
8:50	集合	—	海老名駅西口 バスロータリー
9:00 ～ 9:30	移動（マイクロバス）	30	—
9:30 ～ 10:30	事業現場モニター（七沢里山づくりの会） （現場説明及び質疑応答）	60	厚木市七沢2678
10:30 ～ 10:50	移動（マイクロバス）	20	—
10:50 ～ 11:50	事業現場モニター（伊勢原森林里山研究会） （現場説明及び質疑応答）	60	伊勢原市日向1797 石雲寺所有林
11:50 ～ 12:05	移動（マイクロバス）	15	—
12:05 ～ 12:45	昼食	40	そば処黒沼 厚木市小野658
12:45 ～ 13:00	移動（マイクロバス）	15	—
13:00 ～ 14:30	モニター結果意見交換	90	自然環境保全センター レクチャールーム
14:30 ～ 15:00	移動（マイクロバス）	30	—
15:00	解散	—	愛甲石田駅

平成22年度 第2回市民事業モニター実施結果

- 1 日 時 平成22年8月22日（日） 8時50分～14時30分
 2 対象団体 四十八瀬川自然村、しのくぼ
 3 場 所 秦野市及び大井町
 4 参加委員 久保委員、倉橋委員、木平委員、高橋(二)委員、林委員、柳川委員
 5 行 程

時 間	内 容	所要 (分)	場所等
8:50	集合	—	渋沢駅北口ロータリー
9:00 ～ 9:20	移動（マイクロバス）	20	—
9:20 ～ 10:20	事業現場モニター(四十八瀬川自然村) (現場説明及び質疑応答)	60	秦野市菖蒲
10:20 ～ 10:50	移動（マイクロバス）	30	—
10:50 ～ 11:50	事業現場モニター(しのくぼ) (現場説明及び質疑応答)	60	大井町篠窪 (富士見塚)
11:50 ～ 12:15	移動（マイクロバス）	25	—
12:15 ～ 13:00	昼食	45	足柄上合同庁舎 5 B会議室
13:00 ～ 14:20	モニター結果意見交換	80	
14:20 ～ 14:30	移動（マイクロバス）	10	
14:30	解散	—	新松田駅

- 5 参加者 市民事業専門委員会メンバー、事業モニターチームメンバー及び施策調査専門委員会委員

平成22年度 第3回市民事業モニター実施結果

- 1 日 時 平成22年 8月23日 (月) 8時50分～16時30分
- 2 対象団体 丹沢森林環境研究所、共和地域振興会、北丹沢山岳センター
- 3 場 所 山北町内及び相模原市内
- 4 参加委員 北村委員、久保委員、倉橋委員、小林委員、沼尾委員
- 5 行 程

時 間	内 容	所要 (分)	場所等
8:50	集合	—	谷峨駅
9:00 ~ 9:15	移動 (マイクロバス)	15	—
9:15 ~ 9:45	ヒアリング(丹沢森林環境研究所)	30	山北町川西
9:45 ~ 10:30	移動 (マイクロバス)	45	山北町立共和小学校より 先導車あり
10:30 ~ 11:30	事業現場モニター(共和地域振興会) (現場説明及び質疑応答)	60	山北町皆瀬川
11:30 ~ 14:00	移動兼昼食 (マイクロバス)	150	神ノ川ヒュッテ(相模 原市緑区青根3685)より 先導車あり
14:00 ~ 15:00	事業現場モニター(北丹沢山岳センター) (現場説明及び質疑応答)	60	
15:00 ~ 16:30	移動兼モニター結果意見交換 (マイクロ バス)	90	—
16:30	解散	—	本厚木駅

- 5 参加者 市民事業専門委員会メンバー及び事業モニターチームメンバー

平成22年度 第4回市民事業モニター実施結果

- 1 日 時 平成22年9月10日（金） 13時00分～17時00分
- 2 対象団体 河川生物研究クラブ
- 3 場 所 相模原市橋本
- 4 参加委員 木下委員、久保委員、高橋(弘)委員、増田委員、柳川委員
- 5 行 程

時 間	内 容	所要 (分)	場所等
13:00	集合	—	橋本駅北口
13:10 ～ 13:20	移動（徒歩）	10	—
13:30 ～ 15:30	事業現場モニター(河川生物研究クラブ) (現場説明及び質疑応答)	120	相模原市立宮上小学校
15:30 ～ 15:40	移動（徒歩）	10	—
15:40 ～ 17:00	モニター結果意見交換	80	杜のホールはしもと 練習室1
17:00 ～ 17:05	移動（徒歩）	5	
17:05	解散	—	橋本駅

- 5 参加者 市民事業専門委員会メンバー及び事業モニターチームメンバー

平成22年度 第5回市民事業モニター実施結果

- 1 日 時 平成22年9月27日（月） 8時50分～14時30分
- 2 対象団体 海老名里山づくりボランティア山仕事の会、きれいな中津川菁莪の会
- 3 場 所 海老名市及び厚木市
- 4 参加委員 井伊委員、井上委員、木下委員、齋藤委員、小林委員、高橋(二)委員、増田委員、高橋(弘)委員
- 5 行 程

時 間	内 容	所要 (分)	場 所 等
8:50	集合	—	海老名駅西口バスロータリー
9:00 ～ 9:15	移動（マイクロバス）	15	—
9:15 ～ 10:15	事業現場モニター(海老名里山づくりボランティア山仕事の会) (現場説明及び質疑応答)	60	海老名市上今泉
10:15 ～ 10:45	移動（マイクロバス）	30	—
10:45 ～ 11:45	事業現場モニター(きれいな中津川菁莪の会) (現場説明及び質疑応答)	60	厚木市下川入 (青年の家跡地駐車場)
11:45 ～ 12:05	移動（マイクロバス）	20	—
12:05 ～ 13:00	昼食	55	厚木南合同庁舎 2階会議室 (バス利用終了)
13:00 ～ 14:20	モニター結果意見交換	80	
14:20 ～ 14:30	移動（徒歩）	10	
14:30	解散	—	本厚木駅